

意欲を高めて書く力を身に付ける授業づくり  
～物語創作活動を通して～

### 1. 設定理由

子どもたちがこれからの社会を生き抜いていくためには、自分の考えを相手に的確に伝える力が欠かせない。書いて伝えるというのは、その一つの方法となる。しかし、近年の各調査等からは、子どもたちが書くことへの抵抗感を持っていることが明らかとなっている。

本校で担任した4・5年生も、書くことへの意欲は低く、作文は原稿用紙3～4行程度しか書けなかった。自分の考えが伝わりやすいように文章を構成したり、描写を工夫したりする力も弱く、表記の間違いも多かった。また読書も嫌いという子どもがほとんどであった。しかし、読み聞かせは好きだった。自分たちで作った空想の話やアニメやゲームの話をする 것도好きであった。読み聞かせをした後、物語の世界にのめりこんでいる様子も見られた。

そこで、物語創作活動を行えば、書くことにより意欲的にとりくみ、書く楽しさや喜びを感じることができるのではないかと考えた。物語創作活動では、自分の想像した世界を相手にも分かるように伝える必要性が生じる。そのためには構成や描写を工夫していかなければならない。また創作した物語を近隣小学校に届けることで、書く意欲もわき、書いて伝える喜びも味わえる。相手意識があることで、表記にも気を付けていこう。楽しみながら物語創作活動を行い、構成や描写の力、正しい表記の仕方を身に付けていってもらいたい。そして、物語創作活動の中で身に付けた力を他の書く活動にも生かしていってもらいたいと考え、本主題を設定した。

### 2. 研究仮説

仮説1 物語創作活動の中で、描写や構成について指導していけば、子どもたちの表現の工夫が生まれ、相手に伝わるように書くことができるだろう。

仮説2 作成した物語を近隣小学校と交流することで、どの子も書く喜びを感じ、より書く意欲を高めることができるだろう。

### 3. 研究内容

①書く力を育成するための年間指導計画の作成

②書く力を育成するための授業実践

- ・ファンタジー物語を作ろう（5年生）
- ・12歳のことばをのこそう（6年生）
- ・『白いぼうし』の学習を生かしてファンタジー物語を書こう（4年生）
- ・感じたこと、思ったことを書こう（4年生）

③書く力を高めるための日常実践

### 4. 結論

○「相手に伝えたい」という気持ちを持った物語創作活動の中で、構成や描写についての指導したことで、書いて伝えるための工夫について分かり、表現する力を高めることができた。

○近隣小学校へ届け読んでもらう、という相手意識や目的意識を明確にしたことで、単元の終わりまで書く意欲が落ちることはなかった。また相手から自分たちの物語を読んだ感想をもらったことで、書いて伝える喜びを味わうことができた。

## I 研究主題 意欲を高めて書く力を身に付ける授業づくり～物語創作活動を通して～

### II 主題設定の理由

子どもたちがこれからの社会を生き抜いていくためには、自分の考えを相手に的確に伝える力が欠かせない。書いて伝えるというのは、その一つの方法となる。しかし、近年の各調査等からは、子どもたちが書くことへの抵抗感を持っていることが明らかとなっている。

今まで、子どもたちを指導してきた中でも、書くことに関して苦手意識が高く、書く能力が低い子どもが多かった。本校で担任した4・5年生も、書くことへの意欲は低く、作文は原稿用紙3～4行程度しか書けなかった。自分の考えが伝わりやすいように文章を構成したり、描写を工夫したりする力も弱く、表記の間違いも多かった。また読書も嫌いという子どもがほとんどであった。しかし、読み聞かせは好きだった。自分たちで作った空想の話やアニメやゲームの話をする 것도好きであった。読み聞かせをした後、子どもたちから「まるであの本に出てくる〇〇があそこにいるみたいだよ」「外が□□の世界みたいに真っ暗だね」などという声が毎回聞かれた。物語の世界にのめりこんでいるのだと感じた。

そこで、物語創作活動を行えば、書くことにより意欲的にとりくみ、書く楽しさや喜びを感じることができるのではないかと考えた。物語創作活動では、自分の想像した世界を相手にも分かるように伝える必要性が生じる。そのためには構成や描写を工夫していかなければならない。また創作した物語を近隣小学校に届けることで、書く意欲もわき、書いて伝える喜びも味わえる。相手意識があることで、表記にも気を付けていこう。楽しみながら物語創作活動を行い、構成や描写の力、正しい表記の仕方を身に付けていってもらいたい。そして、物語創作活動の中で身に付けた力を他の書く活動にも生かしていってもらいたいと考え、本主題を設定した。

### III 研究目標

意欲を高めて、描写や構成などの書く力を身に付ける学習活動について実践を通して明らかにする。

### IV 研究仮説

仮説1 物語創作活動の中で、描写や構成について指導していけば、子どもたちの表現の工夫が生まれ、相手に伝わるように書くことができるだろう。

仮説2 作成した物語を近隣小学校と交流することで、どの子も書く喜びを感じ、より書く意欲を高めることができるだろう。

### V 研究の実際

#### 実践1 5学年 ファンタジー物語を書こう

2017年2月 第5学年 9人

##### (1) 単元について

これまで、『大造じいさんとガン』や『わらぐつの中の神様』などで、情景描写や構成の工夫などを学んできた。また、子どもによって、差はあるが、すでに多くの物語を読んだり、簡単なお話作りを体験したりしている。今回は、構成が分かりやすく、学習した文章表現も入れやすいファンタジー物語を書かせていく。写真をもとに自由に想像させていく活動を大切にしたい。意欲的に物語創作活動にとりくむ中で、自分の考えていることを詳しく書くためにオノマトペや会話などを入れたり、気持ちを表すために情景描写を入れたりするなど、表現力を高めさせたい。

##### (2) 指導目標

- ・考えたことなど伝えたいことを決めて、進んで物語のかき方を調べたり書いたりしようとする。  
(国語への関心・意欲・態度)
- ・写真から想像を広げて、物語に書くことを考え文章全体の構成や表現を工夫して物語を書く。(書く能力)
- ・書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して、助言し合う。(書く能力)

### (3) 単元の実践記録

#### ①単元の学習計画を立てよう ファンタジー物語の構造を知ろう

教員による見本誌『ふしぎな実』を読み聞かせ、「みんなも世界で一つの本を作り、郁文小のみんなに届けたいか。」と提案した。「郁文小のみんなをびっくりさせたい。」などという積極的な意見が聞かれた反面、「自分のお話ののるなんて恥ずかしい。」という子どももいた。そこで、ペンネームを教えると、とても安心したようであった。今回は、子どもたちにとって身近なファンタジー作品を作ることにした。ファンタジー作品は、構成も分かりやすく、会話やオノマトペ、情景描写も文章の中に入れやすい。そこで子どもたちの好きな『めっきらもっきらどおんどん』を取り上げ、主人公が現実→異世界→現実を経験するというファンタジーの構造を確かめた。【資料A】また異世界に行き来するときは、スイッチがあることを確かめた。物語創作活動の参考となるようにファンタジーの本を教室に用意し、並行読書をした。【資料3】



A ファンタジーの構造を確かめる掲示物

#### ②物語の大まかな設定を考えよう

まずは、子どもたちが自由に物語のイメージを膨らませて行くことが大切であると考えた。そこで、教員が見本の文章を書く際に使った写真を提示し、どのようにイメージを膨らませていったか確認した。その後、子どもたちにも写真を配付し自由に想像させていった。自分の想像したことを整理していくためにイメージマップを配付し記入していくようにした。そして自分の物語創作のテーマを意識させるために「武将の子孫が過去に行き祖先に会う話」「主人公が宝を探す冒険に行く話」など一言でアピールポイントをまとめさせた。【資料4①】イメージを膨らませることが苦手な子どももいたので、隣どうしをペアとし、いつでも相談し合ってよいことにした。友だちに相談しアドバイスをもらうことで、どの子もイメージマップを完成させることができた。子どもたちがイメージマップを書く際に最も考えていたところが、異世界に行くスイッチである。友だちと相談したり、読書経験を思い出したりしながら自分の物語に合ったスイッチを考えることができた。【資料B】

- ◎鳥居をくぐるとしたら光がさした。
- ◎トイレに入った時光がさした。
- ◎みんなで見つけた不思議な洞窟に入る。
- ◎洗面所で顔を洗い、顔をふく。
- ◎学校に行つて黒板に頭をぶつける。

#### B 子どもたちの考えたスイッチ

#### ③人物設定を詳しくしよう 構成を考えよう

前時のイメージマップでは、人物設定が曖昧であったので、本時の前半に人物設定を行った。登場人物の性格を言葉リストから探し決定した。【資料4②】なかなか思い浮かばない子どもには、自分の好きな本やアニメを参考にしてよいことにした。すると、どんどん設定が決まて行った。【資料C】また、人物設定をより深めていくために、一人称や三人称の学習を行った。『わし』は仙人だよ。『わたくし』はお嬢様だよ。」と一人称の種類で人物設定が分かるということを自分たちで気が付くことができた。【資料4③】後半は、構成を考えさせた。構成を考えやすいようにはじめ、中、終わりの構成やそれぞれに書くことを明確にしたワークシートを用意した。ワークシートが効果的であり、どの子もスムーズに文章を構成していくことができた。【資料4④】

- ◎よく笑う好奇心旺盛な主人公と物知  
りな魚の切り身のペット。
- ◎有名な武将の子孫が全員友だち。そ  
れぞれの武将と似た性格。

#### C 子どもたちの考えた人物設定

#### ④下書きをしよう1

**D** 書き出しの工夫

情景描写  
 ・ 太陽がきらきらと照りつける。  
 ・ だれがどこで何をしているのか  
 ・ がまくんは玄関の前にすわっていました。

三いつのことか  
 ・ 四時間目のことです。

四会話  
 ・ 「これはレモンのおいですか。」

ファンタジー作品を並行読書をしていく中で、書き出しで読み手を惹きつけることが大切だと子どもたちは実感していた。そこで下書きに入る前に、書き出しの工夫について話した。【資料D】実際に今まで学習してきた教材の文を例に出したことで、子どもたちもすんなりと理解できたようであった。提示した中から書き出しを選ばせて書かせた。「わたしが小人たちから聞いた話を前書きにして、それをもとに本文を書く」という『大造じいさんとガン』の設定を真似していく子どももいた。【資料4⑤A児】書き出しを考えさせた後は、自分の思いのままに文章を書かせていった。「どうやって書い

たらいいんだろう？」と途中で手が止まってしまう子どももいたが、「自分の読んだことのある本を真似していいよ。」という、その本を持ってきて、真似しながらどんどん書き進めていった。好きなアニメや漫画などのことを入れながら自分の想像していることを書いていくというのは、子どもたちにとっては、とても新鮮だったようで、集中してとりこんでいた。しかし、思いのままに書いていたので、書きたい文を抜かしてしまったり、表記の間違いが多かったりした。

#### ⑤下書きをしよう2

大事なことを落とさないように構成を意識して書く、表記に気を付けて書くということ徹底させていくために、「5行書いたら読み返す」「分からない漢字は国語辞典をひく」ということを子どもたちに示した。【資料E】以上のことを徹底していったために、前時より注意深く文を書くことできた。また、普段、国語辞典をひくことを面倒くさがる子どもも多かったが、自分の物語を完成させたいという意識からか、進んで国語辞典をひいて漢字を調べる姿が見られた。書き終えた子どもから下書きのチェックリストを渡し、見直しをさせた。【資料4⑥】チェックリストを用意したことで、何をもとに見直すのか明確になったようで自分で読み返し直していた。

**E** 文章を書く際のルール

一、五行書いたら読み返す。  
 二、分からない漢字は国語辞典をひく。

#### ⑥表現を工夫しよう

前時までにじっくりと自分の文章を書いてきた子どもたちは、本当の作家のようで、休み時間から自分の書いた下書きを読んで、何かを考えている子どももいた。本時は「もっと相手を惹きつける文章にしよう。」とめあてを設定した。すると、「みんなが面白いお話だね、と言ってくれたらうれしい!」「みんなにたくさん読んでもらいたい。がんばりたい。」など意欲的な言葉が聞かれた。まず教員見本からどのような表現の工夫が入っているのか見つけさせた。「情景描写が入っているよ!」「詳しく書かれていて分かりやすい。」「オノマトペが入っている。」「季節がすぐに分かる。」などの意見があがった。その中でも今回は、「情景描写を入れる」「会話を入れる」「オノマトペを入れる」「比喩を入れる」「言葉を選ぶ」ということを示した。日常実践でとりこんでいたことなどを思い出し、ほとんどの子どもが、文章の中に情景描写を入れたり比喩を入れたりすることができた。また語彙を増やしていったほしかったので、描写に使えるような言葉を載せたリストを配付し、そこから言葉を選ばせて言い換えさ

**F** 子どもの入れた表現

▲情景描写▼  
 ◎ オレンジ色の光がさしこんだ。  
 ◎ 焼け付くように暑い日だった。  
 ◎ 夏の蒸し暑い晴れた日だ。  
 ▲比喩▼  
 ◎ 桜の木がまるで喜んでいるように見えた。  
 ▲言葉を選ぶ▼  
 ◎ ぼくは気が乗らない。なんだか胸騒ぎがする。

せた。【資料4⑦】リストを配付したことで、どの子も言い換えることはできた。【資料4⑤B児】なかなか工夫を入れることが出来ずに戸惑っている子どももいたので、隣の友だちに相談してもよいことにした。相談し合うことで、どの子も表現の工夫を入れることができた。【資料F】

#### ⑦友だちと読み合いアドバイスをし合おう



G 友だちとアドバイスをし合う様子

構成や描写、表記の間違いがないか確認させるために、はじめに自分の作品をもう一度読み返させた。その後グループになり友だちの作品を読みあつた。その際、友だちの作品の中に表現の工夫が入っているか確かめるためのチェックリストを配付し、チェックさせた。また、気が付いたことや感想を付箋紙に書かせるようにした。

【資料4⑧】子どもたちは、友だちと作品を交換し合うと、どんどん読み進めていった。友だちの書いた物語の中に引き込まれていっているようであった。付箋紙とチェックリストを書き終えた後、

読み合った友だちどうしで、お互いの作品の気が付いたことを話し合わせた。その際のルールとして丁寧に優しく言うこと、相手の良さを認めてほめること、決めつけないことを挙げた。子どもたちは、どんどんと話し合いを進めていった。友だちに「ここが面白い」「こんな表現思いつかないよ」などと言われて、とてもうれしそうであった。自分の物語により自信を持つことができたように感じた。【資料G】

#### ⑧⑨下書きをもとに清書し、本の装丁を決めよう

まず、自分の作品を読み返しさせ、表現の工夫が入っているか、表記の間違いはないか最終確認をさせた。その後、下書きをもとにどんどんと清書をさせていった。「自分の集中できるところに席を移動していいよ。」と話す、子どもたちは思い思いのところへ行き清書を始めた。【資料H】教室が静まり、鉛筆の音だけが聞こえた。どの子も真剣に書き進めていっていた。4月から担任し、文章を書くときには、どのように書いたらよいのか分からず、どんどん教員に質問をしてきた子どもたちであった。また、集中力もなく、すぐに飽きてしまう子どもたちであった。その子たちがこんなにも集中して文章を書いていることに感動をした。



H 集中できるところに行き、ひたすら清書する様子

9時間目の前半には、本の出版に向けて、本の装丁などを決める出版会議を開いた。本には、表紙、はじめに、目次、本文、おわりに、おくづけがあることを確認した。そして、それぞれ作成の分担を決めていった。また、本の値段や出版社の名前を決めた。出版会議後は、また清書の続きをした。清書を書き終えた子どもは、声に出して、自分の物語を読ませた。特に、主述の関係、文字、常体や敬体での文末表現に誤りがないか確認させた。

#### ⑩本を出版しよう<朝自習>

子どもたちの清書したものを印刷製本し、ようやく本が出来上がった。「とよブック初の本だよ。」と話し、子どもたちに配付した。「やった!」と本当にうれしそうだった。「実は大原小や東海小にも見せることになったよ。」と話す、自分たちでそれぞれの学校に向けて手紙を書いていた。子どもたちは、世界で一つの自分たちだけの本を手にしたことで、とても満足したようで、また文章を書くことに自信を持てたようであった。

#### ⑪感想を交流し合おう<朝自習>

子どもたちの作った本を郁文小学校と東海小学校、大原小学校へ届けた。そして感想をもらった。【資料5①】いろいろな学校から感想をもらい、子どもたちは、本当に本を出版したんだ、と実感したようである。感想を読み、「最初の言葉がドキドキしました。」「設定が面白いです。」など、自分たちの工夫した点に読み手が気づいてく

いて、うれしそうだった。相手に自分の考えていることが伝わり、それに対する感想までもらい、充実感や達成感を味わったようであった。「豊浜魂 第2弾を作りたい!」と話す子どももいた。また、郁文小学校の書いた物語に感想を書いた。「オノマトペが入っていて様子がよく伝わってきます。」「主人公になり切って語っていて、物語の世界に入り込んでしまいました。」など、書き手の視点からの感想が見られた。【資料5②】物語創作活動を終えて、アンケートをとった。「文章を書くことが好きですか。」という質問に対して、物語創作活動を行う前は、9人中、書くことが好きという子どもはいなかったが、今回は、全員が書くことが好きと答えていた。また、「文章を書くときに工夫したことは何ですか。」という質問に対しては、全員が「オノマトペを入れてその時の様子が、相手によく伝わるようにした。」「情景描写を入れて気持ちを表現した。」などと答えることができた。子どもたちの書く意欲も高くなり、相手に伝えるための工夫も理解できたということが分かった。

## 実践2 6学年 12歳のことばをのこそう

2017年6月 第6学年 9人

### (1) 単元について

ファンタジー作品を作った子どもたちが、進級し6年生となった。1学期、いろいろな行事があった。運動会、海浜生物採集、勝浦市音楽発表会と、どの行事も6年生が中心となり活動していた。そこで、体験したことを作文に書く学習活動を設定した。

### (2) 指導目標

- ・書きたいことを決めて進んで書こうとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- ・表現の効果を確かめながら書く。(書く能力)
- ・書いたものを読み返し、自分で推敲する。(書く能力)
- ・語句と語句の関係に気を付けながら、いろいろな言葉を文の中で使う。

(言語に関する知識・理解・技能)

### (3) 単元の実践記録

#### ①書きたいものを決めて作文に書こう

1学期の行事がすべて終わった後、「みんな、1学期の思い出を作文に書こう。」と投げかけると、「本当に楽しかったことを忘れたくない。」などの反応が返ってきた。自分の一番書きたい行事を選ばせて書かせた。まず、全員で物語創作活動の時に気を付けたことを振り返っていった。【資料I】それらを入れて文章を書くことにした。また、5行書いたら読み返す、分からない漢字は国語辞典をひくという文章を書く際のルールも確認した。「書き始めましょう。」と指示すると、子どもたちは、文章の構成を自分で考えて、黙々と文章を書いていった。初めは文章を思いつくままに書いている子どももいたが、5行書いて、読み返している段階で、自分で表現の工夫を考え、付け足していくことができた。【資料J】文章を書く時間も5年生のときより短縮された。45分の時間内にほとんどの子どもが原稿用紙一枚以上書くことができた。【資料6】

- ◎ 会話を入れる。
- ◎ 情景描写を入れる。
- ◎ 比喩を入れる。
- ◎ オノマトペを入れる。

I 表現の工夫  
(五年生の時の物語創作活動を参考に)

- △ 情景描写▽
- ◎ 外へ出ると太陽の光がさしこんだ。
- ◎ 青い空には雲一つなかった。
- ◎ 海はサファイアのようにきらめいていた。
- △ 比喩▽
- ◎ □□君は、まるでヒーローだった。
- ◎ 心臓が爆発しそうだった。
- △ オノマトペ▽
- ◎ 先生の手がすつとあがった。
- △ その他の工夫している表現▽
- ◎ 緊張の糸がゆるみ、勇気がわいてきた。

J 子どもたちの入れた表現

## ②友だちと作品を読みあい良いところを伝え合おう

作文を書き終えた後、友だちの作品を読み感想を交流した。感想として「オノマトペが入っていてその時の様子が詳しく分かります。」「常体で語っていてスピード感があり、どんどん読み進めてしまう。」「会話が入っていてその時の様子がよく分かる。」などがあげられた。友だちの作品を読んで、5年生のころは、「おもしろかったよ。」「私もそのことが楽しかったよ。」などの感想のみを書いていた。現在は、友だちの作品を文を書く視点と合わせて読んでいた。感想の視点も変わってきたことが分かった。【資料K】さらに感想をもらったことで、自分の文章のよさを実感し、次に文章を書くときの意欲にもつながったようである。

書き出しを会話で始めている。楽しさが伝わってきた。  
「サターン」などのオノマトペを使っている。  
その時の様子がよくわかりました。氷のようにやさしい。  
サファイヤのように、なごみゆきを使っている。とても  
すてきでした。常体で書かれていて、読みやすい感じが  
します。

K 友だちの作品を読んだ感想

### 実践3 4学年 『白いぼうし』の学習を生かしてファンタジー物語を書こう

2017年6月 第4学年 10人

#### (1) 単元について

『白いぼうし』は、色やにおいなど詳しい描写が多く使われており、豊かなイメージを持ちやすい作品である。現実世界から不思議な世界へ、そしてまた現実世界へというファンタジーの手法を取っており、子どもにとって親しみやすい。また、「緑がゆれているやなぎの下に、かわいい白いぼうしがちょこんとおいてありました。」「夏がいきなり始まったような暑い日です。」などのように色やにおいを表す言葉やその時の様子を詳しく表す言葉が入っている。ここでは、『白いぼうし』での学習を生かして自分たちだけのファンタジー物語を書かせる。そして出来上がった作品を近隣の小学校に届ける。

#### (2) 指導目標

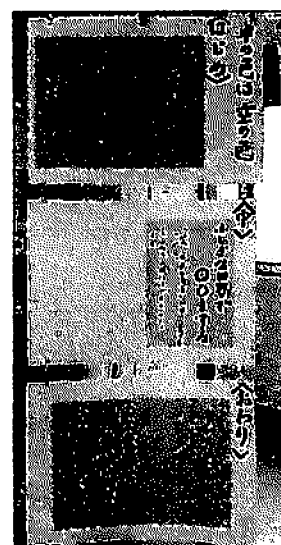
- ・自分で書きたい物語を決めて、進んで物語を書く。(国語への関心・意欲・態度)
- ・よりよい表現になるように工夫して文章を書く。(書く能力)
- ・書いたものを発表し合い、感想を交流し合って表現のよさに気付く。(書く能力)
- ・句読点を適切に打ち、また段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書く。

(言語についての知識・理解・技能)

#### (3) 単元の実践記録

##### ①「車の色は空の色シリーズ」の構造を知り、自分たちの物語の主人公を決めよう

これまでに昨年度の5年生が作成した『豊浜魂』を子どもたちは見ていた。「ペンネームが書いてあってなんか面白そうだな。」「ぼくたちもやってみたいな。」という声が前から聞かれていた。また、『車の色は空の色シリーズ』を『白いぼうし』の学習と並行して読み聞かせをしてきた。「今日からは、松井さんのお話の真似をして、本を作ってみようよ。作った本は、郁文小と上野小に渡そう。」と話すと、「楽しそう。」「やってみたい。」「びっくりさせたいな。」という積極的な意見がきかれた。今まで読んだ『車の色は空の色シリーズ』はどのような物語だったか確認した。「松井さんがタクシーを運転していると不思議なお客がのってきて、不思議な世界に行っちゃうよ。」「くましんしみたい不思議な世界から、不思議な人が来るのもあるよ。」など子どもたちは、それぞれ内容を思い出しながら話をして



L 『車の色は空の色シリーズ』の構成

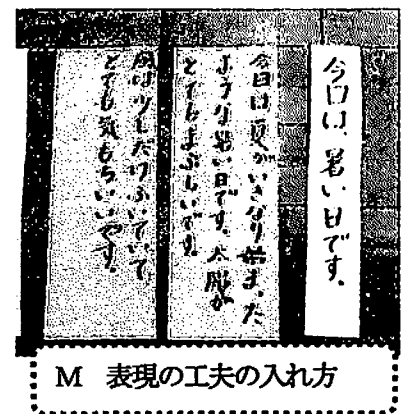
いた。「不思議な世界に行っちゃうお話を行ってらっしゃい型」「不思議な世界から来るのをいらっしゃい型」と紹介した。また「はじめ」「中」「終わり」にはどんなことが書かれているのかも確かめた。【資料L】人物設定は、物語を書く上でとても重要となることを昨年度の実践で、私自身が実感していた。そこで、今回は、子どもたちの実態も踏まえ、主人公をどのような人にするのか全体で考えさせた。主人公の名前を『夢浜さん』とし、職業を松井さんと同じタクシーの運転手、性格を明るくておしゃべりが大好きと決めた。今回は、『夢浜さんのぼうけんシリーズ』をそれぞれ書いていくこととした。

## ②『夢浜さんのぼうけん』の構想を練り、構成を考えよう

子どもたちの自由な発想をどんどん出させるために、まず、どんな不思議な世界に行くのか自由に考えさせた。「お菓子の国に行きたい。」「果物の国がいいな。」「紙の世界がいい。」などいろいろと考えていた。楽しそうにいろいろな想像を膨らませる子どもがいる反面、なかなか想像できない子どももいた。「好きなアニメの世界でもいいよ。」という、「じゃあアイドルミラクルがタクシーにのってきて、アイドルステージをやるでもいいですか?」と聞いてきた。「もちろんいいよ。」と言うと、「じゃあ、アイドルのステージでは・・・」と想像を膨らませていくことができた。【資料7①】次に自分の想像したことが行ってらっしゃい型か、いらっしゃい型か考えさせた。10人中9人が行ってらっしゃい型、1人がいらっしゃい型だった。イメージマップに自分の想像を書き込ませていった。イメージマップに書き込んだことをもとに構成を考えさせた。構成を考えやすいように、実践1と同様に、はじめ、中、終わりの構成やそれぞれに書くことを明確にしたワークシートを用意した。ワークシートが効果的であり、どの子もスムーズに文章を構成していくことができた。【資料7②】

## ③④下書きをしよう

書き出しで悩む子どもが出てくるのがあらかじめ予想された。そこで書き出しは、天気の様子と、夢浜さんがどこを走っているのかを書いていくことにした。どの子も『白いぼうし』の真似をして「今日はとても寒い日です。」「今日は、少し風がある日です。」など自分で考え書くことができた。また、『車の色は空の色シリーズ』の真似をして、「夢浜さんは、ブルースカイホテル周辺を走っています。」など、走っている場所も入れることができた。その後は、前時の構成表をもとに下書きをさせていった。書き出しが出来ると、どの子どももどんどん下書きを進めて行った。自分の思いつくままに書く、自由に書く、というのは、とても新鮮だったようで、どんどんと書き進めて行った。書き終わった子どもには、自分の作品を読み返していくようにさせた。【資料7③】



## ⑤⑥表現の工夫を書き加えよう

教員見本『シャボン玉のたび』を提示し、よいところを見つけさせた。【資料7④】「くわしくていい。」「気持ちの変化が書かれている。」「会話がある。」など様々なことをあげていた。その上で、3つ工夫したことを提示した。1つめは、その日の様子を詳しく書くことである。空の様子、風の様子、太陽の様子などを入れたことを確認した。2つめは、色を入れること、3つめは、

N 子どもたちの入れた表現

△その日の様子を詳しく書く▽

◎今日は何もしなくても汗がだらだらと出てくる暑い日です。

◎今日はとても寒い夜です。雪が道路にたくさん積もっています。

△オノマトペを入れる▽

◎タクシーをそうつと走らせました。

◎ブーンと音を立てて走っています。

△表現を複数入れている場合▽

◎ぴかぴかと青空が輝き海を見ると、いるかが笑っています。

◎だんだん日がしずんでいきました。それは、まるで金色のにじが消えていくようでした。

△その日の様子を詳しく書く▽

◎今日は何もしなくても汗がだらだらと出てくる暑い日です。

◎今日はとても寒い夜です。雪が道路にたくさん積もっています。

△オノマトペを入れる▽

◎タクシーをそうつと走らせました。

◎ブーンと音を立てて走っています。

△表現を複数入れている場合▽

◎ぴかぴかと青空が輝き海を見ると、いるかが笑っています。

◎だんだん日がしずんでいきました。それは、まるで金色のにじが消えていくようでした。

オノマトペを入れることである。この3つの工夫を入れていくこととした。下書きに書き加えていく際には、子どもたちの実態も踏まえ、1つずつ全員で行っていくようにさせた。【資料M】まず詳しく様子を書くことからとりくませた。「先生は、こうしたんだよ。みんなはどうする？季節を考えて書いてごらん。」という、「気温はマイナス35度です。つららくもたくさんできています。」など自分で考えて書き加えていた。隣どうしをペアとし、自分の入れたものをペアの友だちに紹介したり、もし迷った場合は、ペアの友だちに相談したりしてよいことにした。そのため、一人で想像を膨らませることが苦手な子どもも友だちにアイデアをもらったり友だちと一緒に本で調べたりしながら書き加えることができた。色を書き加えることは、どの子も容易にできた。オノマトペを入れることは、入れる場所が分からない子もいた。そこで、タクシーを走らせる文は、全員の作品にあったので、「タクシーをどのように走らせるか、考えよう。ブーンと音を立てて、そうっと、びゅんと、どのような感じだったのかな？」と問いかけた。すると、タクシーの走らせ方のところにオノマトペを入れることができた。【資料N】

### ⑦友だちどうし読み合い、アドバイスをし合おう

まず、前時に入れた表現の工夫に印をつけさせた。その上で交換し合い、表現の工夫が入っているか互いに確認し合った。その後、付箋紙に友だちの作品を読んでの感想を書かせた。「〇〇が面白いね。」「〇〇しても面白そう。」「そんな話を思いつくななんてすごい。」「私も真似して〇〇を入れたいな。」など様々な感想を記入していた。友だちに励ましてもらってとてもうれしそうであった。「本の完成までがんばりたい。」という声も聞かれ、意欲が高まったことが分かった。また、友だちに自分の作品のことについて相談する子どももいた。「ここには歌を入れたいんだけど、どんな歌がいいかな。」など、今自分が悩んでいることを友だちに相談していた。「〇〇したらどうかな？」などの友だちの意見を聞いて、さらに下書きを書き加え、よりよいものにしていた。

### ⑧清書しよう

教員見本から清書の仕方を確認した。題名は3マス開けること、段落の最初は1マスあけること、かぎかっこの書き方、句読点の書き方を確認した。その後は自分たちのペースで清書を進めていくようにした。文章を書く際のルールとして、5行書いたら読み返す、分からない漢字は国語辞典をひくということを指導した。



○ 国語辞典を使っている様子

【資料O】子どもたちは、黙々と清書を始めた。そして一つ一つの文字をととても丁寧に書いていった。書きながら「この文はいらないかな？」「これをもう少しつけたしたらどうかな。」と考えて修正をしている子どももいた。

### ⑨本を出版しよう<朝自習>

出来上がった本を見せると、「すごーい。」などの声が聞かれた。物語創作にとっても自信が持てたようで、「またやりたい。」と言っていた。物語創作活動を終えて、アンケートをとった。「文を書くことが好きですか。」という質問に対して、物語創作活動を行う前は、10人中、2人が書くことが好きと答えていたが、今回は9人が好きと答えていた。文を書くことが嫌いだった子どもが、私のところに来て「先生！私は書くことが好き。なんか面白い！」と言ってきた。とてもうれしかった。子どもたちの書く意欲が向上していることが分かった。【資料8】

### ⑩感想を交流しよう

出来上がった本を上野小学校と郁文小学校に届けた。そして、感想が届いた。それを子どもたちに見せると、とてもうれしそうであった。今まで、作文を書き、それを互いに読み合う活動はしてきた。しかし、なかなか文のみでは、相手に伝わらずに話をして説明を付け足すということが多くあった。今回の感想の中に「きたよきたよ・・・」が不気味でした。」「〇〇がとても不思議でした。」など書かれていた。【資料9】自分たちが伝えたかったことが相手によく伝わり励ましてもらえたことは、とてもうれしかったようである。書いて伝える喜びを感じることができた。子どもたちは、「先生！2学期も夢浜さんのぼうけんをつくろう。」と言っていた。感想をもらったことで、より書くことへの自信と意欲につながった。

(1) 単元について

4年生になり、子どもたちは委員会活動やクラブ活動など様々な新しいことにとりくんできた。他にも高学年と一緒に様々な行事にかかわってきた。そこで、1学期に頑張ったことや楽しかったことを書く学習活動を設けた。

(2) 指導目標

- ・自分で書きたいものを選び、進んで書く。(国語への関心・意欲・態度)
- ・よりよい表現の仕方を考えて書く。(書く能力)
- ・文章の敬体と常体に注意しながら書く。(書く能力)
- ・文章の間違いを正したりよりよい表現に書きなおしたりする。(書く能力)
- ・句読点を適切にうち、また、段落の初めや会話の部分など必要な箇所は行を改めて書く。

(言語についての知識・理解・技能)

(3) 単元の実践記録

物語創作活動ですっかり自信をつけていた子どもたちは、「今日は、作文を書くよ。」という「やった!」と喜んで、「みんなが頑張ってきた1学期のこと文に書いて残そう。」と子どもたちに話すと、「作文っていいね。お話するだけだと消えちゃうけど作文は消えないよね。」と話している子どもいた。子どもたち自身が、文字に書いて相手に伝える良さ、文字に残していく良さを感じていてくれてうれしかった。

①書くことを決めて下書きをしよう

子どもたちに1学期に頑張ったこと、心に残ったことを聞いていった。運動会、勝浦市音楽発表会、海浜生物採集とさまざまなことがあげられた。自分の書きたいものを選び作文に書いていくことにした。どうやって書いていくか子どもたちに聞いてみた。すると、「オノマトペを入れる。」「会話を入れる。」と子どもたちから聞かれた。子どもたちは、物語創作活動の時に示したことを覚えていて、それらをあげてきた。

子どもたちからあがったものを板書した。【資料P】また、「書き出しはどうする?」と質問すると、「お話の時みたいに天気を詳しく入れてもいいかな。」「会話でもいいかな。」などと返ってきた。書き出しの工夫をまとめた掲示物を提示した。実際に海浜生物採集を取り上げ、もし天気から書き出した場合は、「今日は夏のような暑い日です。」会話から書き出した場合は、『やった!』と言いました。」など、全体で確認していった。すると、イメージが持てたようで、どんどん書き始めて行った。

②消書しよう

前時に下書きしたものを読み返し、表現の工夫が入っているか、確認させた。また、5行書いたら読み返す、分からない漢字は国語辞典をひくという文章を書く際のルールを確認した。いよいよ子どもたちの消書が始まった。

黙々と消書をしていた。子どもたちがこんなにも集中して文章を書く姿に驚いた。子どもたちは、それぞれ表現の工夫を入れることができた。【資料Q】その中でも会話は、全員が入れることができた。また、今までは思いつくことをずらずらと書いている子どもも多かったが、書きたいものを選び、それについてより詳しく書いていくことができた。【資料10】

P 表現の工夫

(四年生の時の物語創作活動を参考に)

- ◎ その時の様子を詳しく書く。
- ◎ 色を入れる。
- ◎ オノマトペを入れる。

Q 子どもたちの入れた表現

- △ 色を入れる▽
- ◎ 海はきれいな青色で染まっている。
- △ オノマトペを入れる▽
- ◎ 小さな波が、ぼくの方へザブンと大きな音を出しながら来た。
- ◎ 今日は太陽がきらきら暑い日だ。

**実践5 書く力を高めるための日常実践****【資料11】****①4 コマ漫画をもとにした文の書き方の練習（5年生 朝自習）**

主述の整った文を書いたり、場面の構成を意識して書いたりする力をつけるために4コマ漫画をもとにして文章の書き方を練習していった。

**②情景描写の練習（5年生 朝自習）**

『大造じいさんとガン』で情景描写について学習した。そこから、「悲しいことがある日は、情景描写はどのようになるか?」「とてもうれしい日はどうだろうか?」など問いかけそれぞれの情景描写を練習をしていった。

**③比喩を書く練習（4・5年生 朝自習）**

ものを見せて、どんなものに見えるのか考えさせた。「まるで〇〇のようだ」という文にあてはめさせた。

**④オノマトペを書く練習（4・5年生 朝自習）**

場面を提示したり音を聞かせたりし、自由に発想させた。考えたことを自由に発表させ、いろいろな見方があることを実感させていった。

**⑤読書郵便（4・5年生 朝自習、家庭学習）**

子どもたちが少しでも意欲的に読書にとりくむことができるように読書郵便にとりくんだ。自分のお勧めの本や読んだ本の紹介文を書き、他学年に届けていった。

**⑥なりきり作文 書き換え作文（5年生 朝自習、家庭学習）**

子どもたちが書く楽しさを感じ、書くことへの意欲を高めていってもらいたいと思い、なりきり作文にとりくんだ。また、視点を広げていくために書き換え作文を書かせた。

**VI成果と課題****【成果】****仮説1**

- ・物語創作活動の導入で、教員の見本を示したことで、学習の見通しが持てた。また表現の工夫や構成がどのようなものか理解することができた。
- ・構成のワークシートを具体的に用意することで、戸惑いなく構成することができた。
- ・日常実践を積み重ねることによって、戸惑いなく比喩やオノマトペなどの表現を文章に入れることができた。また書くことへの意欲を高めていくことができた。
- ・友だちと相談したり、本や教員見本を参考にしたりしながら表現の工夫を入れて、その時の気持ちや様子がよく伝わるように文章を書くことができた。
- ・物語創作活動に使える言葉のリストを用意したことで、子どもたちが使える語彙が増えた。
- ・物語創作活動で学んだことを生かして、構成や描写を考え、生き生きとした生活作文を書くことができた。

**仮説2**

- ・相手意識を明確にした物語創作を行ったことで、単元の終わりまで書く意欲を持続できた
- ・自分の作品を相手に届けるという意識から表記に気を付けて書くことができた。
- ・正しい文字を書くために、国語辞典を積極的に使おうとする姿勢が見られた。
- ・近隣小学校から感想をもらったことで、書くことへの自信が付き、書くことへの意欲を高めることができた。

**【課題】**

- ・言葉を考えて言い換える際に、使い方を誤ってしまう子どももいた。使う際には、文脈の中での意味をしっかりとらえた上で使わせていくとよかった。
- ・今回の物語創作活動の経験を生かして、物語に興味を持たせ子どもたちの読書量をさらに増やしていきたい。その中でさらに語彙を増やし、表現力を高めていきたい。

# 資料



【資料1】書く力を育成するための年間指導計画 第4学年

□書くこと △伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

| 学期          | 単元名・時数                        | 身につけさせたい力                                                                                       | 子どもの活動                                                    |
|-------------|-------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 1<br>学<br>期 | 白いぼうしの学習を生かしてファンタジー物語を書こう（書8） | □表現の仕方を工夫して文章を書く。<br>△句読点の打ち方や改行の仕方など文章の書き方に気を付けて物語を書く。                                         | 「白いぼうし」を参考にして、表現の工夫を考えながら、物語を書く。                          |
|             | 漢字辞典の使い方（伝国3）                 | △漢字辞典の使い方を知り、漢字の部首や成り立ちや画数について知識を持つ。                                                            | 「音訓索引」「部首索引」「総画索引」を使った調べ方を知り、漢字辞典を使う練習をする。                |
|             | 春の風景（書2）                      | □春の風景に興味を持ち、それに関する語句を増やす。                                                                       | 春に関する言葉を集めて春の俳句を作る。                                       |
|             | 漢字の広場（書2）                     | □文の間違いを正したりよりよい表現に書き直したりする。<br>△3年生までに配当されている漢字を書き文の中で使う。                                       | 絵を見て、町や周りの様子を想像し、提示された言葉を使って町を紹介する文を書く。                   |
|             | 新聞をつくろう（書15）                  | □伝えたい事が明確になるように文を書く。<br>△句読点や段落に気を付けて書く。                                                        | 記事にすることを決めて、取材し新聞を作る。                                     |
|             | 夏の風景（書2）                      | □夏の風景に興味を持ち、それに関する語句を増やす。                                                                       | 夏に関する言葉を集めて夏の俳句を作る。                                       |
|             | 自分の考えを伝えるには（書8）               | □自分の考えが明確になるように段落相互の関係に注意して文章を書く。<br>□書こうとすることの中心を明確にし目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く。<br>△句読点や段落に気を付けて書く。 | 夏休みに行くとしたら山がいいか、海がいいか考えて、自分の意見がはっきりと伝わるような意見文を書く。         |
|             | 感じたことや思ったことを書こう（書2）           | □関心のある事柄から書くことを決めて、必要な事柄を思い出しながら書く。<br>□文章の間違いを正したり、よりよい表現にしたり書き直したりする。<br>△句読点や段落に気を付けて書く。     | 1学期の出来事から自分が一番心に残ったものを選び、1学期の思い出を作文に書く。                   |
|             | 漢字の広場（書2）                     | □文の間違いを正したりよりよい表現に書き直したりする。<br>△3年生までに配当されている漢字を書き文の中で使う。                                       | 絵を見て場面を想像し、提示された言葉を使いながら夏の楽しみを文に書く。                       |
| 2<br>学<br>期 | カンジ博士の漢字しりとり（伝国2）             | △漢字を正しく読んだり書いたりする。                                                                              | 熟語を作り漢字しりとりをする。                                           |
|             | 漢字の広場（書2）                     | □文章の間違いを正したりよりよい表現に書き直したりする。<br>△3年生までに配当されている漢字を書き文の中で使う。                                      | 絵を見て場面や出来事を想像し、提示された言葉を使いながら「おむすびころりん」と「浦島太郎」の話を完成させる。    |
|             | 秋の風景（書3）                      | □秋の風景に興味を持ち、それに関する語句を増やす。                                                                       | 秋の風景から想像を広げて、詩を書く。                                        |
|             | 慣用句（伝国2）                      | △長い間使われてきた慣用句の意味を知り生活の中で使う。                                                                     | 慣用句の意味を国語辞典で調べて、短い文を作る。                                   |
|             | 「クラブ活動リーフレット」をつくろう（書9）        | □書こうとしている事柄の中心を明確にして、写真と文章を対応させながら段落相互の関係に注意して文章を書く。<br>△句読点を適切にうち、段落の初めなど必要な箇所は、行を改める。         | 写真と文章を組み合わせ、クラブ活動を紹介するリーフレットを作る。                          |
|             | 漢字の広場（書2）                     | □文の間違いを正したりよりよい表現に書き直したりする。<br>△3年生までに配当されている漢字を書き文の中で使う。                                       | 絵を見て、学校の様子を想像し、文を書く。                                      |
|             | 文と文をつなぐことば（書2伝国2）             | □文と文をつなぐ接続語の役割を知り、それを使ってよりよい表現に文を書き直す。<br>△文と文のつながりを考えて接続語を使う。                                  | 接続語を使って文章を書き、友だちと交流する。                                    |
|             | 野原に集まれ（書6）                    | □表現を工夫し詩を作る。<br>□書いたものを読み合い、表現のよさについて交流する。                                                      | 野原の住人になりきって、見えてくる風景や聞こえてくる音を想像し詩を書く。完成した詩を互いに読み合い感想を交流する。 |
|             | 冬の風景（書3）                      | □冬の風景に興味を持ち、それに関する語句を増やす。                                                                       | 見つけた冬を織り込んで、手紙を書き、必要に応じて間違いを正したり、よりよい表現に書きなおしたりする。        |

|             |                |                                                                                                                         |                                                     |
|-------------|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 3<br>学<br>期 | 漢字の広場（書2）      | □文の間違いを正したりよりよい表現に書き直したりする。<br>△3年生までに配当されている漢字を書き文の中で使う。                                                               | 絵を見て、休日の様子を想像し、提示された言葉を使って文を書く。                     |
|             | 熟語の意味（伝国2）     | △訓や漢字の意味を手がかりに熟語の意味を考える。<br>△これまでに学習した漢字を正しく読む。                                                                         | 熟語の意味を考えて、友だちと説明し合う。熟語がどのような組み合わせでできているか調べる。        |
|             | 私の研究レポート（書13）  | □書くことを決めて必要な事柄を集めて調べて分かったことを明確にして文章を書く。<br>□書いたものを読み返し、必要に応じて、よりよい表現となるように修正する。<br>△表現したり理解したりするために必要な語句について辞書を利用して調べる。 | 自分が疑問に思うことについて、インターネットや本を活用して調べ、分かったことを報告するレポートを書く。 |
|             | まちがえやすい漢字（伝国2） | △同音異義語や同訓異字の使い分けを通して漢字や語句の意味の違いに気が付き、文や文章の中で使う。<br>△漢字と仮名を用いた表記に関心を持つ。                                                  | なじみのない読み方をする言葉の意味を国語辞典を使って調べる。意味と結びつけた読み方について調べる。   |
|             | 十年後のわたしへ（書2）   | □目的に合った内容を考えて手紙を書く。<br>□書いた手紙を読み返し、表記の間違いを正したりよりよい表現に書きなおしたりする。                                                         | 十年後の自分を想像し、手紙を書く。                                   |

## 【資料2】書く力を育成するための年間指導計画 第5学年

□書くこと △伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

| 学期          | 単元名・時数                  | 身につけさせたい力                                                                   | 子どもの活動                                                    |
|-------------|-------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 1<br>学<br>期 | 漢字の広場（書2）               | □書いたものの表現について確かめたり工夫したりする。<br>△4年生までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使う。                | 提示された言葉を使い、4年生までに習った言葉を正しく使い図書館の使い方についての説明文を書く。           |
|             | 春の空（書2）                 | □昔の人のものの見方や感じ方を参考に自分が感じたことを文章に書き表す。<br>△古文について内容の大体を知るとともに、語感や言葉の使い方に興味を持つ。 | 春の風景を表す写真を見て感じたことを文章に表す。                                  |
|             | 漢字の成り立ち（伝国1）            | △漢字の成り立ちについて理解する。                                                           | 既習の漢字について、漢字辞典を使って成り立ちを調べる。                               |
|             | 漢字の広場（書2）               | □書いたものの表現について確かめたり工夫したりする。<br>△4年生までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使う。                | 漢字を正しく使いながら絵に合う登山家の半生を文章に書く。                              |
|             | 古典の世界1（伝国2）             | △昔の人のものの見方や感じ方を知る。<br>△古典の文章を音読し、言葉の響きやリズムを味わうとともに、文章の内容の大体を知る。             | 教科書に載っている古典作品から一つ選んで暗唱する。昔の人のものの見方に触れて感じたことや考えたことをノートに書く。 |
|             | 敬語（伝国1）                 | △日常よく使われる敬語の使い方に慣れる。                                                        | 「尊敬語」「謙譲語」「丁寧語」の違いについて理解する。敬語を使うべき場面やその時に使うべき言葉について考える。   |
|             | 漢字の広場（書2）               | □書いたものの表現について確かめたり工夫したりする。<br>△4年生までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使う。                | 提示された言葉を使って各教科での学習や学校生活での体験を、学級日誌に記録するように文章に書く。           |
|             | 夏の夜（書2）                 | □昔の人のものの見方や感じ方を参考に自分が感じたことを文章に書き表す。<br>△古文について内容の大体を知るとともに、語感や言葉の使い方に興味を持つ。 | 夏の風景を表す写真を見て感じたことを文章に表す。                                  |
|             | 次への一歩<br>活動報告書を作ろう（書10） | □文章全体の構成を考えて、目的に応じて詳しく書いたり簡単に書いたりする。<br>□表現の効果について考えて書く                     | 活動計画にそって活動したことを報告する文章を書く。構成やレイアウトを工夫して報告文を書く。             |
|             | カンジエ博士の暗号解読（伝国1）        | △同じ音の漢字を書き分けるとともに、これまでに学習した漢字を書いたり読んだりする。                                   | 漢字辞典や国語辞典を活用しながら同じ音の漢字を利用したクイズを作り出し合う。                    |
|             | 日常を十七音で（書3）             | □言葉の選び方や表現の効果について確かめたり工夫したりしながら俳句を作る。<br>□作った俳句を発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合う。      | 生活の中での出来事を、言葉を選び俳句にする。                                    |

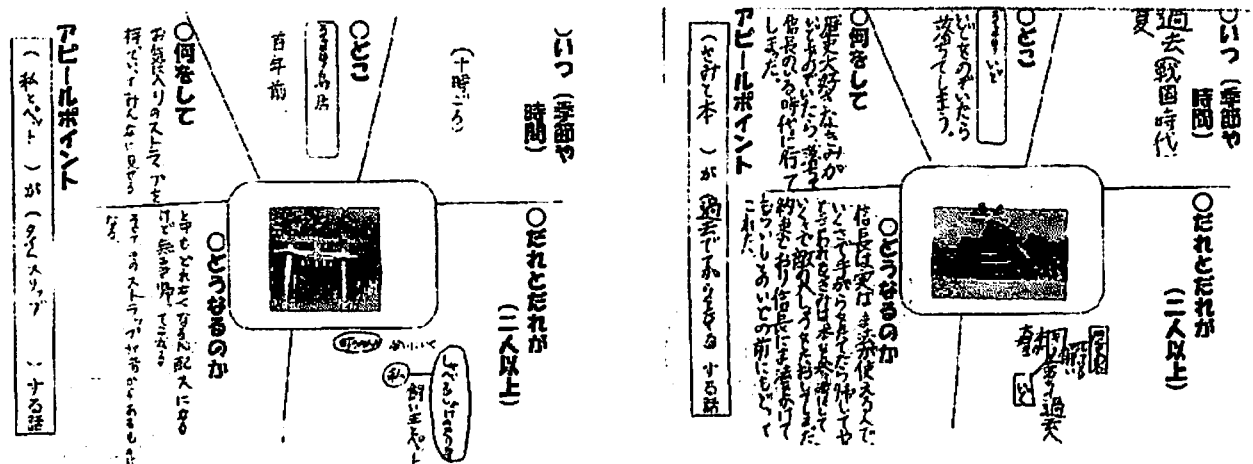
|             |                  |                                                                                      |                                                                    |
|-------------|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 2<br>学<br>期 | 明日をつくるわたしたち（書8）  | □自分たちの身の回りにある問題について調べ、文章全体の構成を考えながら提案書を書く。<br>△語感や言葉の使い方について関心を持つ。                   | 身の回りの問題について調べて、それに対する対応策を考えて提案書を書く。                                |
|             | 漢字の読み方と使い方（伝国2）  | △複数の音を持つ漢字の読み方と特別な読み方をする言葉について理解する。                                                  | 辞典を使って、複数の音を持つ漢字の読み方や特別な読み方をする漢字を調べる。                              |
|             | 漢字の広場（書2）        | □書いたものの表現について確かめたり工夫したりする。<br>△4年生までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使う。                         | 誰が、どこで、何をしている文なのか絵を見て提示された言葉を使って書く。                                |
|             | 秋の夕暮れ（書2）        | □昔の人のものの見方や感じ方を参考に自分が感じたことを文章に書き表す。<br>△古文について内容の大体を知るとともに、語感や言葉の使い方に関心を持つ。          | 秋の風景を表す写真を見て感じたことを文章に表す。                                           |
|             | グラフや表を用いて書こう（書6） | □収集した事柄を整理し、引用したり図や表を用いたりするなど書き方を工夫し自分の考えが伝わるように書く。<br>□書いたものを発表し合い表現の仕方に着目して助言し合う。  | 統計資料を見て、それらを引用したり図や表を用いたりしながら、自分の意見を書く。                            |
|             | 同じ読み方の漢字（伝国2）    | △同音異義語や同訓異字について知り、言葉や漢字への興味を深める。<br>△文章中の主語と述語の関係に注意し文の内容をとらえたり書き表したりする。             | 同じ訓の漢字を集めて意味を漢字辞典で調べたり同じ音の漢字を集めて国語辞典で調べたりする。                       |
|             | 古典の世界2（伝国2）      | △昔の人のものの見方や感じ方を知る。<br>△古典の文章を音読し、言葉の響きやリズムを味わうとともに、文章の内容の大体を知る。                      | 孔子と弟子の間答の場面を想像しながら「論語」や漢詩「春曉」を暗唱する。                                |
| 3<br>学<br>期 | 分かりやすく伝える（書2伝国1） | □表現の効果について確かめたり工夫したりする。<br>△語感や言葉の使い方に対する感覚などについて関心を持つ。<br>△文章には、いろいろな構成があることを理解する。  | 相手に応じた分かりやすい表現の仕方を考えて文章を書く。                                        |
|             | 漢字の広場（書2）        | □書いたものの表現について確かめたり工夫したりする。<br>△4年生までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使う。                         | 駅からおばあちゃんの家までの道案内する文をつなぎ言葉や提示された漢字を使って書く。                          |
|             | 複合語（伝国2）         | △語句の構成や変化などについて理解を深めるとともに語句の由来などに関心を持つ。<br>△送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書く。                     | 複合語のでき方と組み合わせ方をノートに整理する。                                           |
|             | 冬の朝（書2）          | □昔の人のものの見方や感じ方を参考に自分が感じたことを文章に書き表す。<br>△古文について内容の大体を知るとともに、語感や言葉の使い方に関心を持つ。          | 冬の風景を表す写真を見て感じたことを文章に表す。                                           |
|             | ファンタジー物語を書こう（書9） | □文章全体の構成や表現の工夫をして物語を書く。<br>□書いたものを発表し合い表現の仕方に着目して助言し合う。<br>△物語にはいろいろな構成があることを理解している。 | 写真から想像を広げ、構成や表現を工夫しながら、物語を書く。                                      |
|             | 漢字の広場（書1）        | □書いたものの表現について確かめたり工夫したりする。<br>△4年生までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使う。                         | 必要な事柄を考えて出来事を報道する文章を書く。                                            |
|             | 六年生になったら（書2）     | □目的や意図に応じて書く事柄を集める。<br>□文章全体の構成の効果を考えて書く。                                            | これまでの小学校生活を振り返り頑張ったことや楽しかったことを振り返る。「6年生になったら」というテーマで6年生への期待や抱負を書く。 |

【資料3】「ファンタジー物語を作ろう」貸出図書リスト

| 図書名                 | 作者          | 出版社     |
|---------------------|-------------|---------|
| 大お婆さんの不思議なレシピ       | 柏葉幸子        | 偕成社     |
| おばけ美術館へいらっしやい       | 柏葉幸子        | ポプラ社    |
| 霧のむこうのふしぎな町         | 柏葉幸子        | 講談社     |
| くらやみ城の冒険            | マージェリーシャープ  | 岩波書店    |
| 木かげの家の小人たち          | いぬいとみこ      | 福音館書店   |
| 11をさがして             | パトリシア・ライリー  | 文研出版    |
| チキチキバンバン            | イアン・フレミング   | あすなろ書房  |
| どっこい巨人は生きていた        | メアリー・ノートン   | 岩波書店    |
| にじいろのさかな うみのそこのぼうけん | マーカス・フィスター  | 講談社     |
| 春のお客さん              | あまんきみこ      | ポプラ社    |
| パンケーキを食べるサイなんていない？  | アンナ・ケンプ     | B L 出版  |
| ふつうに学校にいくふつうの日      | コリン・マクノートン  | 小峰書店    |
| フングリコングリ            | 岡田淳         | 偕成社     |
| ほうきにのれない魔女          | 茂市久美子       | ポプラ社    |
| 星のタクシー              | あまんきみこ      | ポプラ社    |
| ぼくネコになる             | きたむらさとし     | 小峰書店    |
| 床下の小人たち             | メアリー・ノートン   | 岩波書店    |
| ユタとふしぎな仲間たち         | 三浦哲郎        | 講談社     |
| エリちゃんでおいで           | あまんきみこ      | 佼成出版社   |
| きつねのかみさま            | あまんきみこ      | ポプラ社    |
| きつねの写真              | あまんきみこ      | 岩崎書店    |
| きつねの窓               | 安房直子        | ポプラ社    |
| 雲のピアノ               | あまんきみこ      | 講談社     |
| クレヨン王国茶色の学校         | 福永令三        | 講談社     |
| そうべえごくらくへゆく         | たじまゆきひこ     | 童心社     |
| 小さなスプーンお婆さん         | アルフ・プリョインセン | 学習研究社   |
| トリッポンと王様            | 萩尾望都        | 教育画劇    |
| トリッポンとおばけ           | 萩尾望都        | 教育画劇    |
| トリッポンとこねこ           | 萩尾望都        | 教育画劇    |
| どろんこそうべえ            | たじまゆきひこ     | 童心社     |
| ふしぎなかぎばあさん          | 手島悠介        | 岩崎書店    |
| ぼくはおばけのおにいちゃん       | あまんきみこ      | 教育画劇    |
| もりのてがみ              | 片山令子        | 福音館書店   |
| 雪窓                  | 安房直子        | 偕成社     |
| よもぎのはらのおともだち        | あまんきみこ      | PHP 研究所 |

【資料4】『ファンタジー物語を書こう』で使用したワークシートと言葉のリスト

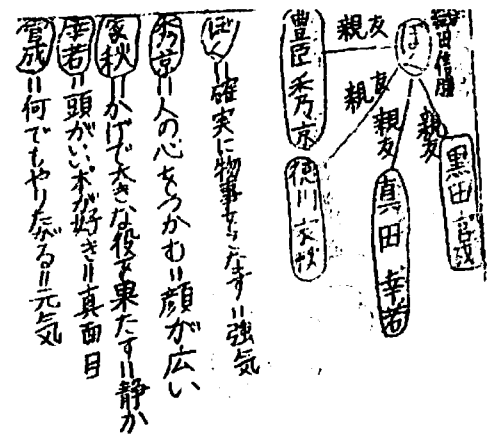
① イメージマップ



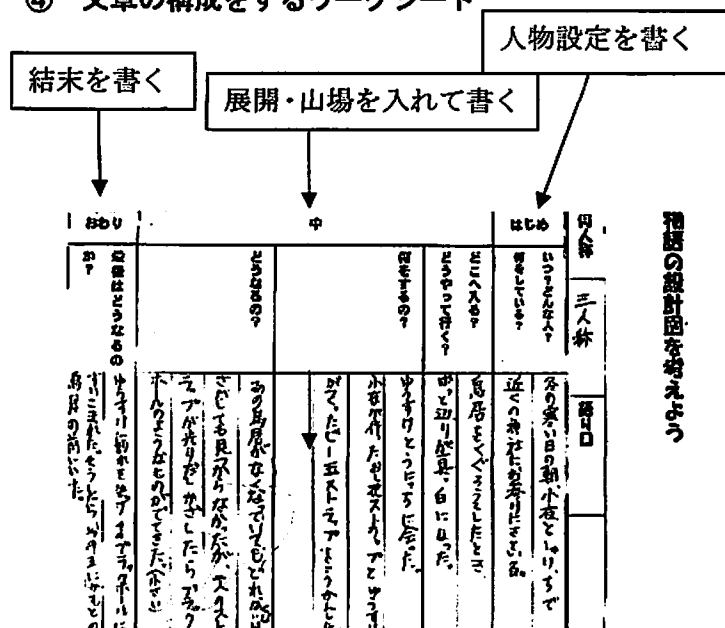
② 性格決定のための言葉リスト

- ことばのたからばこ (性格集め)
- (ほう)
- ・ 食いしん坊 ・ けちん坊 ・ 鼻れん坊 ・ 甘えん坊 ・ 忘れん坊
  - ・ あわてん坊
  - ・ (お店屋さん)
  - ・ さみしがり屋 ・ てれ屋 ・ 怖がり屋 ・ がんばり屋
  - ・ 暑がり屋 ・ 寒がり屋 ・ お天気屋 ・ 知りたがり屋
  - ・ しきり屋 ・ めんどくさがり屋
- (虫)
- ・ 弱虫 ・ 泣き虫
- (その他)
- ・ 内気・強がり・意地っ張り・せこい・よくほり・マイペース
  - ・ おっちょこちょい・おてんば・わがまま・こわがり・きざ
  - ・ おしゃべり・いじわる・いじめっこ・ドジ・後ろ向き
  - ・ のんき・きちょうめん・おこりっほい・シャイ・強情・冷たい・
  - ・ うそつき・陽気・お気楽・冷静・おだやか・元気
  - ・ 優しい・明るい・前向き・おしゃれ・引っ込み思案・正直
  - ・ 誠実・りちぎ・気がいい・おあらか・おっとり・しんちよう

③ 人物設定ワークシート



#### ④ 文章の構成をするワークシート



常体と敬体どちらで語るのか、考えさせた。8人がテンポよく語りたい、ドキドキする感じを伝えたいなどの理由で常体、1人が丁寧に語っていきたい理由で敬体を選んだ。

文末表現や何人称で語るのかなどを  
考えさせた

|   | 文末表現 | 何人称 | 語り口 |
|---|------|-----|-----|
| A | 常体   | 三人称 |     |
| B | 常体   | 三人称 |     |
| C | 常体   | 三人称 |     |
| D | 常体   | 三人称 |     |
| E | 常体   | 三人称 |     |
| F | 常体   | 三人称 |     |
| G | 常体   | 一人称 | 私   |
| H | 敬体   | 一人称 | ぼく  |
| I | 常体   | 一人称 | ぼく  |

⑤ 下書き

A児

船<sup>ふね</sup>は下で見てはけなうとみてゐた。  
 春、今日が二番桜の見ごろだと知り、桜を見ていた。  
 くれし<sup>ゆめ</sup>はあまりにも命をすさうとあきらもうた。  
 船は下りはまだこれからだ。  
 桜雪をまきとめていたうさぎは動く物が見えた。  
 まるですりみだいたいとおもつてそれは小人だつた。  
 小舟のうさぎ

**B 児**

二人が話してたら、<sup>おれ</sup>~~おれ~~坂も上がってきた。  
家秋たちに泣きつゝを説明すると、三人は何も言  
ひがなかつた。つとて四人はわくわくといふか  
ほは金を棄れたのだって何だな。腹があるさうする  
おれちんへん課でいゝと行かうでなかうか言た。  
それ何も持たず暗いところへ入つていった。  
まぢで荒かに掘をしてしたらうかた。  
どう一つには更の足音と木の音だけなむびた。  
ななごわくなた。ほは家秋にうめつた。うちも  
強氣動じながらうけつけたせか家秋は自らもある。

◎A児

『大造じいさんとガン』の書き出しのように前書きを書いている。「わたしが桜の小人から聞いたことをもとに物語を書いた」という設定にしている。

## ©B 兎

言葉リストを見て言葉を言い換えた。囲んである部分は換えた部分である。

## ⑥ 下書きチェックリスト

「國の旗が揚がっているか。」  
「旗は揚がせていますか。」  
「旗を竿に掛ける旗を柱になつてゐるか。」  
「最初から最後まで、同じ旗竿になつてゐるか。」  
「旗竿について、つぎもないところはないか。自分がつぎもないと信じるなら、他の人はずつとつぎを信じてゐるはず……」  
「旗竿の分ちもないところはないか。」  
「旗しく出てくる旗竿には説明が書かれてゐるか。」  
「旗竿入柱が書き分けられてゐるか。全部での旗竿のうかにも書いておよう。」  
「旗竿旗で旗に旗竿ばかり使つてゐないか。」それから「そして」「など」  
「旗竿も文はないか。」  
「最初から最後まで文は同じか。へーだーです」  
「旗竿旗竿はないか。」  
「旗竿や」「の旗竿は旗竿でないか。」

自分の替いた下廻をチエックしてみよう！

下書きを見直そう

名前

### ⑦ 感情を表す言葉リスト

- うれしい ↓喜ぶ・喜ばしい・跳びあがるほどうれしい
- 楽しい ↓おもしろい・愉快だ・心がはずむ・はしゃぐ  
うきうき・わくわく・心が躍る・ときめく・声が弾む
- 気持ちいい ↓こころよい・快い・快適だ・上機嫌だ・気分爽快だ  
晴れ晴れする・気が晴れる
- 安心だ ↓ほっとする・落ち着く・心安らかだ・ほほえましい  
↓残念だ・心残りだ・無念だ・後悔する・くやむ  
未済が残る
- つまらない ↓退屈だ・うんざり・手待ちがさた・気が乗らない
- 不安だ ↓心配だ・気がかりだ・胸さわぎがする
- 悲しい ↓しみみり・もの悲しい・あわれ・胸がいたむ

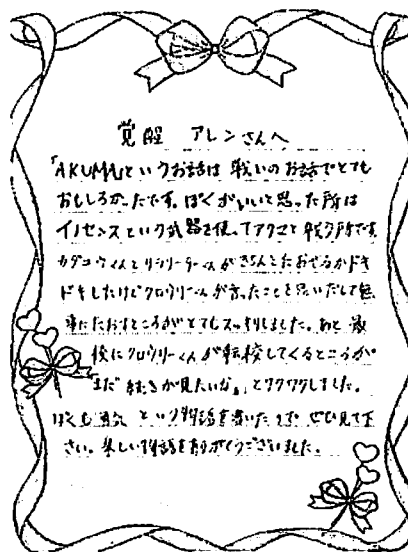
## ⑧ 読み合いチェックリスト

|                                                                  |                   |                   |                   |                       |                       |
|------------------------------------------------------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-----------------------|-----------------------|
| <p>気-いたこと</p> <p>情骨に桜が<br/>入っていてとて<br/>すてきでした。<br/>わらわもおもしろい</p> | <p>会話が入っているか？</p> | <p>情景が入っているか？</p> | <p>比喩が入っているか？</p> | <p>論理を出しは工夫しているか？</p> | <p>言葉をたくさん使っているか？</p> |
|------------------------------------------------------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-----------------------|-----------------------|

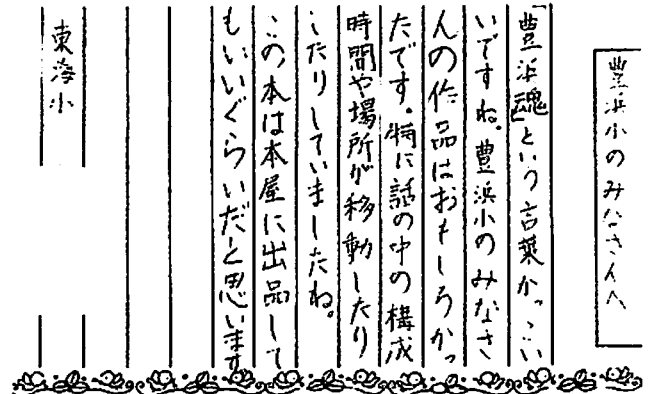
語彙を増やしていってほしかったので普段、子どもたちがあまり使わない言葉を載せておいた。

### ①近隣小学校からの感想

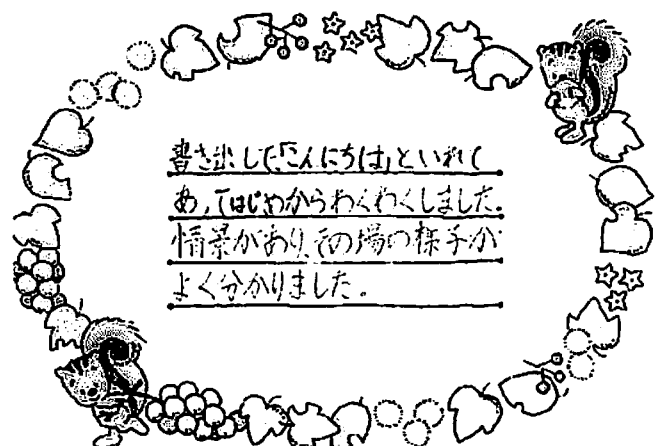
◎郁文小学校から



「豊洪魂」を読んで、内容が  
しかりこしていておもしろかに  
です。物語の構成がタイム  
スリップしていたり場所が移動し  
たりしたので二巻してゐるなと  
思ひました。また、オノマトペや  
漢字が描写が書かれていたため  
わたしも物語に入れた気持ちに  
なれて楽しかったです。



最初と最後までランにわりきって書いていた  
ので読んでいて楽しかったです。全体で  
書かれていますとも読みやすそうです。金額  
もたくさんはいていて おもしろかったです。



【資料6】物語創作をした後の児童の変容 6年生

① A児

〈5年生2月の作文〉

今日の演習は、教室は、時間の流れが、は  
たながし、し、見、話、王、座、の、み、か、は、や、か  
は、い、つ、も、す、は、さ、い、け、き、を、見、や、も、う、て  
い、ま、す、が、今、日、の、は、さ、い、け、き、を、見、や、も、う、て  
このお話を見、だ、か、に、い、思、い、ま、さ、し、く、し、て、あ  
け、り、あ、ま、う、に、わ、り、な、い、と、思、い、ま、さ、し、く、し、て、あ  
お、ま、う、後、の、あ、ん、か、さ、ん、が、す、こ、く、か、あ、い、ま、さ  
ま、し、た、あ、ま、う、後、の、あ、ん、か、さ、ん、が、す、こ、く、か、あ、い、ま、さ  
は、い、ま、う、後、の、あ、ん、か、さ、ん、が、す、こ、く、か、あ、い、ま、さ  
さ、す、が、ア、ロ、ド、な、と、思、い、ま、さ、し、く、し、て、あ  
たい、で、す、

文字数

5年生 205文字

6年生 776文字

A児は、もともと文章を自分の力で考えることができる子どもであった。しかし、その時の様子をより詳しく書くことができなかった。

物語創作活動後は、どんなことを文章に入れて書いたらよいのか理解できたようで、オノマトペを入れたり気持ちの変化を入れたりして文章を書くことができた。常体で語り臨場感あふれる文章を書くことができた。

〈6年生6月の作文〉 1/2ページ

最後、音楽委員会  
次は豊浜小、器楽合奏による、君の名は  
メドレーです。  
拍手とともに、きんぐうが響いていく。今  
日は、私にと、て最後の音楽発表会だ。練習  
期間が、一ヶ月と、とても短く、うんと、充  
実できるかに、配、た、た、も、み、な、て、い、り  
に、練習した。リズムが、な、か、な、か、合、わ、い、け、り  
時間、も、練習、つ、け、の、毎、日、。でも、こ、れ、は、け、つ、り  
した、人、だ、。て、き、な、い、は、す、か、な、い、な、ん、て、こ、い  
を、思、っ、て、い、た、ら、す、つ、と、先、生、の、手、が、し、か、い  
た、。こ、れ、は、け、つ、り  
ビ、ア、ニ、カ、の、音、が、ひ、び、く、。と、て、も、さ、わ、い、た、。  
つ、づ、け、て、リ、コ、ー、グ、ー、や、打、鼓、を、入、れ、た、。順、調、だ、。  
最初、は、楽、灯、う、ら、。閉、幕、が、終、わ、。大、団、の、歌、い、出、  
し、は、鉄、さ、ん、。木、さ、ん、と、い、い、し、に、入、る、。こ、こ  
こ、は、落、ち、つ、い、て、い、い、さ、わ、や、か、な、感、じ、た、。こ  
の、バ、ー、ト、が、終、わ、る、と、こ、こ、ア、ニ、カ、な、ど、の、楽、器、が  
入、り、ま、す、か、こ、こ、い、い、感、じ、に、な、る、。い、い、よ、い、よ

② B児

〈5年生5月の作文〉

文字数

5年生 137文字

6年生 793文字

東京での試合

今は 夜の九時四十分です。すごくねむい  
です。今日、初めて東京日本武道館で試合を  
しました。なぜか知らないけど、この大きな  
大会ではあまりきんちやうしませんでした。  
一回戦負けだったけど、よかったです。



おつかれさまでした。  
きんちやうしなくてよかったね。  
剣道で、とくにむずかしいことは  
何ですか。

このお話を連ねてみましたが大変です。  
でもこれから一生けんめいがんばります。

B児も自分の力で文章を書くことはできるが、  
「〇〇が大変でした。」「〇〇がよかったです。」  
という文が多く詳しく書くことができなかった。  
6年生6月には、自分の力で、2枚の作文  
を書きあげた。会話や気持ち、情景描写が入っ  
ていて、詳しくその時の様子が分かる文章を書  
いた。文章からその時のワクワク感、ドキドキ  
感が生き生きと伝わってくる。

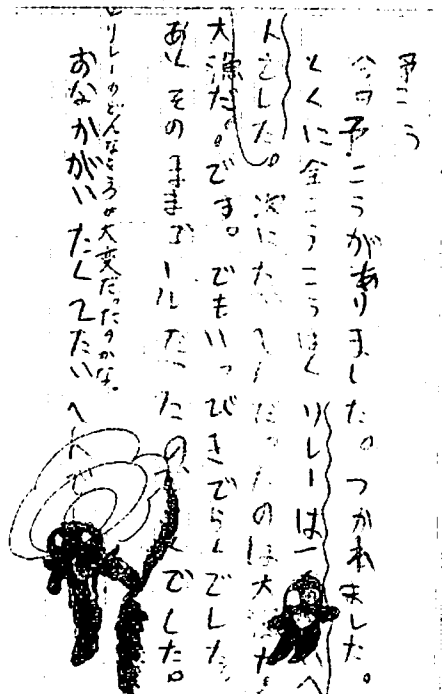
〈6年生6月の作文〉 1/2ページ

最後の思い出

今日、雨じゃなくてよかった。  
私は、月曜日のお弁当の日がよかった。  
友達と歩きながらおしゃべりしていた。  
今日は、最後の海浜生物採集。太陽は、ギラ  
ギラとようしどなく照りつける。海へ入るに  
は最高の日だ。ドウドウワクワクしながら  
はいそへ向かっていた。ザブーンと波が打ち  
よせる。いそへついた。いきおいよく海の中  
へ入ったとたん、  
「冷たっ!!」  
と思わずさげんをしまった。海は、氷のよう  
に冷たかった。でも、時間がたつにつれて、  
その冷たさは消えていった。何を採ろうかと  
考えていると、友達が、  
「いたー、アメフラシ!!」  
とさうそくアメフラシを見つけにいた。毎年  
バケツいっぱいアメフラシを見つけては、  
記録更新をねがっている。最初に見つけたア

③ C児

＜5年生5月の作文＞



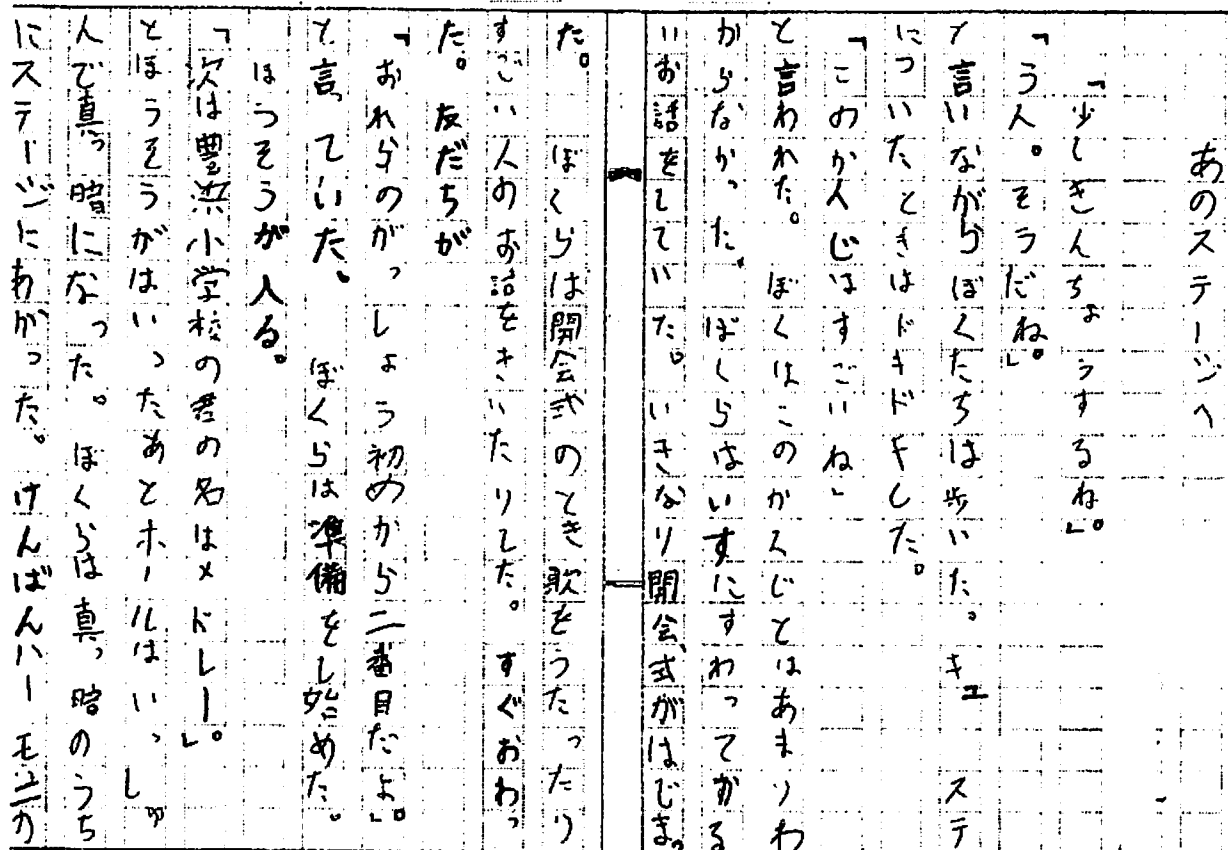
文字数

5年生 115文字

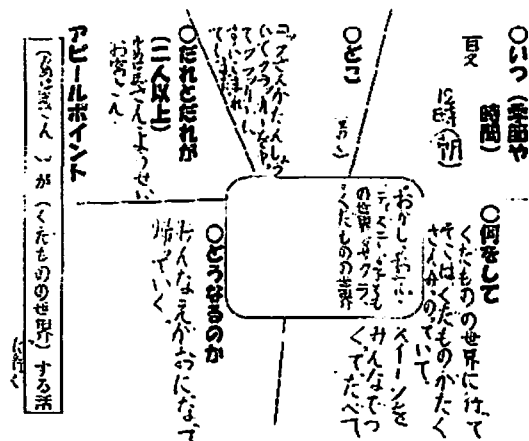
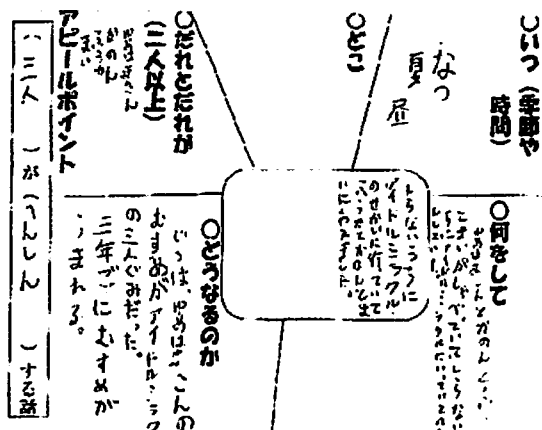
6年生 796文字

C児は、文章を書くことが苦手であり大嫌いな子どもであった。5年生5月の作文は、教員が、「次はどうしたの?」「それからどう思ったの?」と問いかけながらようやく書いた作文である。6年生6月の作文は、45分で書き上げた。会話や気持ちを入れて詳しく文章を書くことができた。何より集中力がなかったC児が、45分集中し、自分の力でここまで書き上げたことに驚いた。

＜6年生6月の作文＞ 1/2ページ



## ① イメージマップ



### ◎不思議な世界へ行く行ってらっしゃい型

|                 |                                      |
|-----------------|--------------------------------------|
| 主人公（忘れ）         | 夢遊の人                                 |
| いつの路？           | 百文の詰<br>12時                          |
| まずはどこを走っている？    | しほん王のまじ<br>したの立                      |
| 何をきくわけがある？      | 女の「ク」きえん<br>のて<br>のて「ク」きえん<br>たへはじめた |
| 「〇〇がのってきて△△をした」 | フルリンの国                               |
| どんなところに行く？      | フルリンの国                               |
| そので何をやる？        | フルリンの国                               |
| そこにはなにがあるの？     | フルリンの国                               |
| どうやって来たの？       | フルリンの国                               |

|            |                  |                                        |
|------------|------------------|----------------------------------------|
| いっしょにしゃいがた | 五人發（だれが）         | ゆめはちえん                                 |
|            | いつの題？            | ちやき<br>一冊二五分                           |
|            | だれがのつてくる？        | カノン、フウカ、<br>マイ                         |
|            | どこでのせる？          | ひまわり<br>高                              |
|            | どんな曲をする？         | きょうに歌いだ<br>した                          |
|            | どんなことをタクシーの中でする  | いすにすわてへん<br>歌うた                        |
|            | どうやってタクシーからおおりる？ | へんしん、でタク<br>シーからおおりた<br>した、こゝろをとり<br>た |
| いっしょにしゃいがた | いつ正体が分かる？        | タクシーをふりた、こ<br>ろをとりた、こゝろを<br>とりた        |

今頃は、いまだ、夢來がしゃぼん玉の  
木林したの丘を運転していました  
いはらくすると、ゴックさんのかっこう  
をした女せいが手をあけています。  
「どちらまで」  
と夢來さんが聞きました。  
「トじの林まで」  
と言いました。夢來さんがそうと走らな  
した。  
その後、お客さんがお外へおどろ

(校目) 下書きをせよ

「書きをしよう」(二) 牧目

その三人的おんなの手は、おへまを  
はまさんにわたしました。三人のおんなの  
子がありていきましました。  
三年後にはおめはまさんにが  
生まれました。そのむすめたち  
は、あの三人にそっくりでした。

三人は、アイドルになりました。

そして、おめはまさんの前で歌った歌  
をテレビの中で歌っています。

シャボン玉のたび

つばめ

今日は、とても暑い日です。夢坂さんは、りんどう公園の近くを走っていました。すると、道のまん中に小さい男の子が立っています。ストローをくわえて、ふーとシャボン玉をふいていました。車が通れないのに、しらん顔です。

「あぶないよ。どきなさい。」  
と、言うと、男の子は夢坂さんのタクシーにのってきました。そして車の中でシャボン玉をふきはじめました。夢坂さんは、こまごま、てしまいました。

「やめなさい。」

夢坂さんが言うと、なんとタクシーごとシャボン玉の中に入りうきあがっていきやめた。

「どんなに高く夢坂さんのタクシーはあがっていました。下を見ると、りんどう公園に咲いているひまわりが金色に光って見えまして、何だか夢坂さんの心もうきうきとてきました。」

男の子の方を見ると、男の子もうれしそうに顔をしています。男の子が急に「わあー」

と、大きな声を出しました。前を見ると、大きなはじのはしかかかっています。赤、オレンジ、きいろ、白。カラフルで、とてもすてきなはしを夢坂さんのタクシーは、くぐりました。夢坂さんち男の子も、ここにきています。じばくすると、あまい良いにおいが出てきました。夢坂さんが下を見ると、おも

の木がありました。おいしそうなももがたくさん実をついています。

「おいしそうだね。」

と男の子が言いました。その時、目の前に大きな鳥が飛きました。そしてパチンミンと夢坂さんのタクシーのシャボン玉をわてしてしまいました。

「おちるー！わあー！」

と男の子と夢坂さんかきけました。そして思わず目をつぶりました。

気が付くと、りんどう公園の前にはいました。男の子は、バンテにすわってシャボン玉をふいています。夢坂さんは、ふしぎに思いました。しかし男の子とのたのしい空のたびと思ひ出し、あたたかい気持ちになりました。そしてまたえがおでタクシーを走らせました。

【資料8】自分たちの感想



お話し作りが楽しかったです。毎日見て  
いるアニメをさんこうにしました。会話を  
いれて、書きました。みんながよんでくれ  
てうれしかったです。  
またお話しを作りたいです。



おしゃべりするのにはさんこうしていません。  
でも書くのは、好きです。文を書いて  
何かをつたえる時は、さんこうしません。  
だから書くほうが好きです。

【資料9】近隣小学校からの感想

◎上野小学校から

豊浜小四年生のみなさんへ  
私は、豊浜さんのぼうけんストーリーを読んで、あまり面白かった。お話し作りが楽しかったです。毎日見て  
いるアニメをさんこうにしました。会話を  
いれて、書きました。みんながよんでくれ  
てうれしかったです。  
またお話しを作りたいです。

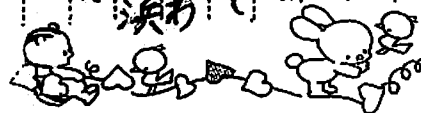


上野小4年



◎郁文小学校から

ゆめ浜さんのぼうけんを  
読んでいろいろなストーリー  
があって楽しめました。ふしぎな  
キャラクターが出てきたりして  
文作りがうまいです。わくわ  
くしながら読みました。ゆめ浜  
さんがいるこの世界に、わたしは  
行ってみたいです。  
♡ 郁文小 四年



【資料10】物語創作をした後の児童の変容 4年生

① A児

＜4年生5月の作文＞

ぼくは、5月21日、日曜日に、陸上きょう  
き大会に行きました。  
ぼくは、おうえんをしていました。選手になり  
たが、たです。  
とよはま小がしょうじょうをもりえて、よ  
かつたです。ほかの学校よりも大きな声であ  
うえんできたと思います。  
来年度の陸上きょうき大会では、選手にな  
ってやう勝したいです。

文字数

4年生5月 130文字

4年生7月 473文字

A児は、もともと文章を自分の力で考  
えることができる子どもであった。し  
かし、5月の作文では「〇〇しました」  
「〇〇と思いました。」という文が多  
く、詳しく書いてはいない。7月の作  
文では、会話やオノマトペが入ってい  
て、その時の様子がよく分かる作文と  
なっている。また後で調べたことも入  
れている。

＜4年生7月の作文＞ 1/2ページ

初めての海浜生物とい集  
今日は、今年初めての海浜生物とい集だ。  
海は、きれいな青色で、そま、ている。  
今日は、どんな生き物がしれるかない。  
ぼくは、わくわくしていた。いよいよ海浜生  
物とい集が、はじまった。あな浜に、行くよ。  
小さな波が、ぼくのほっぺ、サグこと大きな  
首を出しなからきた。  
た。そして海に入ると、すこしつめたが、た。  
だんだんなれてくると、さ。そく、海の生き  
物を見つけた。サザエがあ。た。その水の  
高さは、ぼくの、ひざまで来ていた。次に、  
ヤドカリを見つけた。名前が、ホミナラヤ  
ドカリ。世界のいそに、ひきかいてないう  
しいすこく少ない数のヤドカリを、つかまえ  
られてよかった。最後に、ウニを見つけた。  
とても重い岩を、先生と、持ち上げた。その  
岩のうらには、ウニがいた。急いで、取  
友達の中でタコを取、ていた人もいた。最後

### ＜4年生5月の作文＞

**4年生5月 184文字**

**4年生7月 665文字**

五月五日  
今日、陸上大会がありました。わたしは、  
今メートルやうとリレーにでました。わたし  
は、今メートルやうの時、亡きときして、わ  
たが赤くしま、たけ、じ、んけ、し、うは  
行けました。みんな、うけ、し、うには  
行けませんでした。くやし、たてず、友に  
リレーをやり、した。バトンパスは、うまく  
できませんでした。こんど、りく上大会では、け、  
し、うせんまで、う、て、し、う、し、うとり  
たいです。

B児も自分の力で文章を書くことはできるが、詳しくは書くことができない子どもであつた。5月の作文は、「〇〇をしました。」「〇〇したいです。」という文が多かつた。ここまで書くのに45分かかつていた。7月には、30分程度で2枚の作文を書きあげた。「運動会で、心に残ったことを書こう。」とB児に投げかけると応援合戦のことを書いた。初めての応援団でとても緊張したが、思いっきりできた様子が伝わってくる文章を書くことができた。

＜4年生7月の作文＞ 1／2ページ

最高の運動会

今日は、太陽がキラキラ、運動会をやるには、最高の日。ドキドキしながら登校した。運動会のじゅんびが始まった。運動会が始まり、午前の部が終わり、ごはんを食べて、じゅびをした。白組があつまり、おうえん団が、一言ずついった。みんながえんじんをくんだ。団長が、

ダブルゆうしょうするぞー！

と、いった。

と、

と、みんながいった。

練習では、大きい声で、いえなか。たので、気をつけていた。赤組からおうえんが始まった。私は、すごいと思った。白組のおうえんが、始まった。おうえん団として、一生けんめい大きい声を出した。一人で言う場面もあった。大きい声で、

なんともう一グルーブきてくれています。

### ＜4年生5月の作文＞

**文字数**

**4年生5月 176文字**

**4年生7月 435文字**

C児は、文を書くことに抵抗はないが、自分の  
思いついたことをどんどん書いていってし  
まう子どもであった。7月の作文では、自分が  
一番がんばったことを選び、会話や気持ちを入  
れながら書くことができた。

＜4年生7月の作文＞ 1／2ページ

会は大陽がきざきざ暑い日。  
 だんちうが言いました。  
 「やるぞー」  
 みんなが言いました。  
 「おー」  
 ドキドキしてみんなが  
 かんばろう。  
 えがおでりりました。  
 つひひきゆほふきせんあせをながしてあ  
 こなりました。  
 三四年がやるめざせとうまうオリンピッ  
 クでせんたいいろいろなせんしはなりました。  
 た。わたしは、テニスのせんしになりました。  
 た。みんないろいろなせんしになりきって  
 いて。みんなが、こまか、たてず。一位、  
 二位、三位とならぶとき、  
 さやちゃんすこいね。  
 とり、こられました。

## 【資料 1 1】書く力を高める日常実践

### ① 4コマ漫画をもとにした文の書き方の練習（5年生 朝自習）

主述の整った文を書いたり、場面の構成を意識して書いたりする力をつけるために4コマ漫画をもとにして文章の書き方を練習していった。場面の絵に合う文章を書かせていった。何も書いていない用紙と「〇〇が□□しています」「〇〇が□□と言っています」などという文型の入った用紙の2種類を用意した。自分で好きな方の用紙を選ぶようにさせた。文章を書くのが苦手な子どもも穴埋めの用紙を用いることで、自分で文章を考えることができた。人気のアニメの4コマ漫画や簡単なストーリーの4コマ漫画を取り上げたことで、子どもたちは、とても意欲的に取り組むことができた。

|                 |  |  |  |               |          |  |  |  |               |
|-----------------|--|--|--|---------------|----------|--|--|--|---------------|
|                 |  |  |  | どうなるかな？<br>名詞 |          |  |  |  | どうなるかな？<br>名詞 |
| 絵をもとに自分で文を考えて書く |  |  |  |               | 文型が入った用紙 |  |  |  |               |

### ②情景描写を書く練習（5年生 朝自習）

『大造じいさんとガン』で情景描写について学習した。そこから、「もし悲しいことがある日は、情景描写はどのようなになるか？」「とてもうれしい日はどうだろうか？」などと問いかけ、それぞれの情景描写を練習をしていった。そして悲しい時とうれしい時に分けて掲示していった。情景描写によってそれぞれ表すことができる気持ちが違うということを子どもたちは、学んでいくことができた。また、悲しい時、うれしい時の分類に入らない気持ちもあるということが子どもたちから出た。そこで、「緊張する時」「やったと思う時」など掲示する欄を増やした。

◎マラソン大会の日の情景描写

- ・太陽がきらきら照りつける。
- ↓絶対に負けないぞ。
- ・今日はとても良い天気だ。
- ↓楽しみだな。
- ・今日は朝からどんよりしている。
- ↓マラソン大会は嫌だな。
- ・朝からひんやりとした風がふいている。
- ↓マラソン大会は緊張するな。

### ③比喩を書く練習（4・5年生 朝自習）

ものを見せて、どんなものに見えるのか考えさせた。そして「まるで〇〇のようだ」という文にあてはめさせた。考えたものを互いに発表させて、いろいろな見方があることを実感させていった。初めは、なかなか思いつかない子どももいたが、何回か繰り返していくうちに、自分でたとえていくことができるようになってきた。

比喩の例

◎穴あけパンチ

- ・まるでかえるのようだ。
- ・まるで跳ねているうさぎのようだ。

◎咲いている花

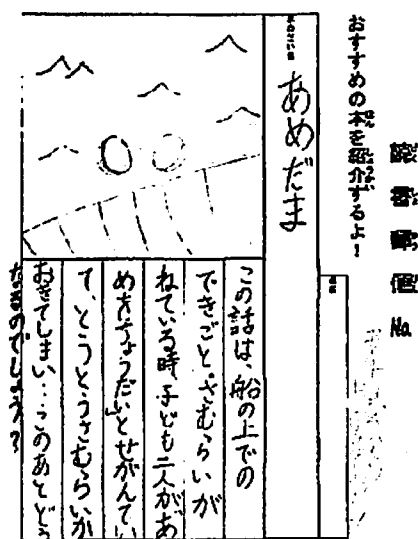
- ・まるで笑っているようだ。

#### ④オノマトペを書く練習（４・５年生 朝自習）

実際に音を聞かせて、どのように聞こえるか考えさせた。ここでも考えたことを自由に発表させ、いろいろな見方があることを実感させていった。また、音には聞こえないが、様子を表すオノマトペがあることも知らせ、「静かな時はしいん、しい」「怒っている時はぷんぷん、ぷんすか」が合うなどと考えさせていった。

#### ⑤読書郵便（４・５年生 朝自習、家庭学習）

子どもたちが少しでも意欲的に読書に取り組むことができるように読書郵便に取り組んだ。自分のお勧めの本や読んだ本の紹介文を書き、学級の友だちや他学年に届けていった。友だちに届けるということもあり、子どもたちはとても意欲的であった。そして、紹介文を書くために何度も何度も本を読み返す様子が見られた。今までは、本の中の絵のみを追っていた子どもも、しっかりと文章を何度も読んでいた。



読書郵便を届けた学年から返事をもらった。  
子どもたちはとても喜んでいました。

小林一三は、いろいろな公園や駅などを作っていたということを知りびっくりしました。また西郷隆盛は6年生でも勉強をしますが新時代を作ろうとしていたということを知っているのはすごいと思いました。ほくもその本を読んでみたいと思いました。

人のえいじん  
た本は、野口英世  
の小さい頃、け  
して、が、ついで  
く、いし、られ  
た、そ、勉強し  
ついで、その、前へ  
病、研究をし  
けた、本、運命が  
り、本、世の、

#### ⑥なりきり作文 書き換え作文（５年生 朝自習、家庭学習）

あたしはカレー。  
スパイシーだけれど、くせになる味もつる。  
食べてもらうとすくなくうれしい。  
今日作ってみてね。

かき氷  
ミーンはかき氷です。  
食べると頭いたくなる人いるね。  
ごめんなさい。ソーリー、ソーリー。

なりきり作文

子どもたち自身が書くことを楽しむこと、自ら書きたいと思うことがまずは大切なのではないかと考え、なりきり作文をやることにした。子どもたちに、「ものになりきって、どんな気持ちか、どんな言葉を言っているのか考えてみよう。」と投げかけると、「おもしろそう。」「やってみたい。」と前向きな発言が返ってきた。初めの一文は、「わたしは、カレー。」など自分が何か紹介する文を入れることとし、あとの文は自由に考えさせた。ただし、思いつかない子どもは見本の文を真似してもよいことにした。慣れてくるとそれぞれのもので性格を変えて行く子どもがでてきた。

『三匹の子ぶた』の母親を主人公に書き換えた。

私はプタのママ。いつものいそがしい生活を送っている中、私は決心したの。

「このさんまの生活をしていたらいけない！」

三匹の「子ぶた」と言われているけど、実はせがれさんだけでもう二十なの。うちに学校に行かない仕事もしてなくて毎日だらだらしている。

これはやばい、そう思った私はなんでも良いから一人ぐらしをしてほしかった。なので家をうつれるようになものを考えたの。一番足の速いにはわらわも、二番目の子には少し丈夫な木。一番頭のいい子にはれんがオイルなベマキをもてたの。えんどう豆をまきのようにもお願したわ。

そしていよいよ三匹は出て行った。

「いってきまーす！」

私は笑った。

「最近、おおかみが出てくるのよ、ねえ！」

「子ぶたは又は大丈夫なのわ！」

子どもたちの視点を広げていくことをねらって、書き換え作文にとりくんだ。書き換え作文は、物語の主人公を変えて書くというものである。例えば、『ももたろう』の鬼や、『おおかみと三匹の子ぶた』の母親になりきって物語を書いていった。「ももたろうの鬼は、ももたろうたちが来るまで、いろいろなところに行ってたくさん悪さをしていたんだよ。」など

いろいろな想像を自由に膨らませていた。なかなか想像できない子どももいたので、全体で想像したことを共有した上で、作文を書かせていった。人物設定や文章構成がほぼ決まっているために子どもたちもとても考えやすかったようである。どの子も自分なりの文章を書くことができた。